

# 第 14 回 全国高校生英語ディベート大会 in 群馬 出場校選考基準

2019 年 4 月 13 日 (理事会)

9 月 12 日 (情報追加)

## HEnDA 理事会・審査委員会

### 総則

1. 出場枠の総数：出場枠の総数は 64 とする。<sup>1</sup>
2. 出場枠の割り振り：各都道府県（以下、「県」と略）と各校の出場枠は、以下の条件 A から F の割り振り基準に従い、順に割り振られる。
3. 各大会の条件：以下の基準で言う都道府県大会（以下、「県大会」と略）と、幾つかの都道府県にまたがる大会である「ブロック大会」として認定されるには、その大会が①HEnDA の Make Friends の精神にのっとり、②今年度の全国大会と同じ論題を用い、③ほぼ同じルール・試合形式で行われ、その都道府県や該当ブロック内にある高校で、④全国大会に出場する資格のある県内の高校に参加を閉ざず、⑤全ての参加チームが最低でも 2 試合（肯定側・否定側、各一試合）に出場し、その結果で予選選抜が行われていることの 5 条件を満たしている必要がある。<sup>2</sup>  
「ブロック大会」の認定については、さらに a) 参加校数が 10 校を越え、b) 特定の都道府県からの参加チーム数が参加総チーム数にしめる割合が 4 割以下に抑えられている、という二つの条件を満たしていることとする（条件 D,E および、解説を参照）。<sup>3</sup>
4. 各県の出場校：各県大会の出場枠が確定後、原則として、その県大会で上位の成績をおさめた学校を優先して実際に出場校を選抜する。ただし条件 D のブロック大会出場枠を確保した学校は、条件 D で出場したものとし、その学校の所属県が獲得した条件 A, B, F の枠からの出場校については、条件 D 校を除いた上位が出場する。  
なお当然ながら、出場校は応募が完了している学校のうちからのみ選ばれる。<sup>4</sup>
5. 補欠校：選抜後に出場を辞退した学校があった場合、まずは出場を辞退した同一県から補欠校を探す。それが不可能な場合は、条件 F を参照し他県から補欠校を探す。大会直前の上場辞退などで、万が一、総出場校数が奇数になる場合は、全国大会開催県もしくは近隣県より、主催者の判断により追加チームの参加を認める。

<sup>1</sup> 以下の条件 A, B, C, D, E 枠の合計が 64 を越えた場合のみ、追加もありうる。

<sup>2</sup> ⑤の条件は、2019 年度より追加。どのチームも最低 2 試合、肯定側・否定側の両方を行うということの主旨は、一試合だけで敗退が決まる、例えば甲子園式のトーナメント式の予選は行わないことである。これは二つの理由による(1)教育的観点——試合経験は生徒の成長に寄与するものであり、本来、多い方が望ましい。それだけでなく、例えば 6 人のチームメンバーのうち出場機会の全くないメンバーがいることも避けるべきである。(2)大会としての公正性——予選試合を何試合か行った後での結果選抜でないこと、努力が報われにくくなる。運の要素を排除するためには、なるべく多くパワーペアリング式の予選を行うことが望ましい。県大会・ブロック大会によらず、①から⑤までの条件を満たしていない場合、B,D,E,F の適用を停止または制限する。例えば、条件 F での出場校枠を獲得するための、数あわせだけの学校の算入は認められない。

<sup>3</sup> 県大会・ブロック大会の出場資格を制限する際には、公平・客観的・合理的な規準に則っていることが求められる。

- 認められる制限の例：①地域的な制限：東北 6 県のみのための大会、等。②チーム数制限：総数〇〇チームまで受け入れるが、出場県ごとに何チームまで先着順・抽選等で制限する、等
- 認められない制限の例：全国大会で出場の認められている学校を排除する規定（特定県だけの排除、私立校だけの排除、イマージョン教育校の排除など）

<sup>4</sup> 全国大会の出場校として選ばれるためには、募集要項に則り、期日までに全国大会の応募書類等の提出が完了していることが大前提である。県大会やブロック大会での出場後自動的に参加登録がされるわけではない。

## 出場枠の割り振り基準

条件 A 開催県枠	全国大会を開催する県と、次年度開催県には、それぞれ、1 枠を割り振る。
条件 B 県大会選抜枠	県大会が開催された県については、その年の県大会に実際に参加した <u>学校数</u> に応じ、さらに以下の出場枠を割り振る。 参加校数 <u>11 校以上</u> 出場枠 2 <u>11 校未満 2 校以上</u> 出場枠 1
条件 C 初参加・参加困難県の特例枠	過去の全国大会に未出場の県から、もしくは <u>2 回連続で出場校のなかった県</u> から、ただ一校だけ応募があった場合は、特例としてその学校の出場を認める。 <sup>5</sup>
条件 D ブロック大会優勝校枠	当年 6 月以降 11 月初旬に行われる、連盟が認定したブロック大会の <u>優勝校</u> には、全国大会への出場資格を与える。 <sup>6</sup>
条件 E ブロック大会 特例枠	ある学校が所属県でただ一校だけしか活動しておらず、県大会が開催できない状態にある場合に限り、上記のブロック大会に出場し、 <u>準優勝</u> した場合にも、特例としてその学校の出場を認める。 <sup>7</sup>
条件 F 追加選抜（ドント式）	以上の選抜後、さらに余枠がある場合は、追加出場希望の応募のあった県についてのみ、まずは下の a) の原則に従い、その県に一枠ずつ追加していく。それでも余枠がある場合、さらに b) の方式で追加を続ける。  a) その県に既に割り振られた（条件 D も含め）全ての枠数に 1 を加えた数を分母に持ち、その県の県大会に参加した学校数を分子に持つ分数を、各県について計算する。その分数が大きい県を優先し一枠ずつ追加する。a1) この分数が一致する県が複数ある場合、既に出場決定した枠数が少ない方を優先する。a2) この分数だけでなく、決定済み枠数も一致する県同士については、抽選して順位を決める。 b) 上の追加が全ての県にゆきわたった結果、まだ余枠がある場合には、さらに既に割り振られた枠数に 1 を加えた数を分母にして分数を計算しなおし、a) と同様の優先順位で、さらに 1 枠ずつ追加選抜を行う。ただし同一県からの出場校は原則最大で 5 までとし、5 に達した県を除外して優先順位を付ける。それでも余枠がある場合にのみ、6 枠目以降の追加も続ける。

### 参考 条件 F での出場校枠

2018 年度 10 校  
2017 年度 12 校 条件 B を「11 校以上」と厳しくする  
2016 年度 6 校

<sup>5</sup> 原則として、県大会への参加が全国大会出場の必須条件となる。例外は、条件 C, D, E である（過去にあった、近隣県の県大会を利用しての特例的な出場枠は、廃止されている）。

<sup>6</sup> 連盟の認定するブロック大会については、連盟 HP を参照。前年度同様、今年度は D, E のブロック大会枠は、事前に連盟が認定したブロック大会についてのみ適用する。

<sup>7</sup> 全てのブロック大会準優勝校に、全国大会の応募が認められている訳ではない。県大会が開けない県の学校へのいわば救済措置としてこの条件を設ける。なお条件 C と重複する場合は、条件 C での出場とするが、その場合もブロック大会 3 位以降には条件 E は適用されない。

## 参考 2019 年度 ブロック大会（認定予定）

<p><b>第 5 回 高校生英語ディベート大会関西ブロック大会 in 滋賀</b>              8 月 25 日 会場：滋賀県立膳所高等学校</p> <p>主催者・地区 全国高校英語ディベート連盟 HEnDA 関西ブロック</p>
<p><b>第 1 回 Make Friends Cup in Fukui</b>              9 月 24 日 会場：福井県教育総合研究所</p> <p>主催者・地区 福井県高教研英語部会</p>
<p><b>第 1 回高校生英語ディベート大会 Make Friends Cup in Chuo University</b>              8 月 19 日 会場：中央大学</p> <p>主催者・地区 Make Friends Cup 大会運営委員会</p>
<p><b>第 5 回 高校生英語ディベート東海地区ブロック大会</b>              10 月 14 日 会場：岐阜聖徳学園高等学校</p> <p>主催者・地区： 全国高校英語ディベート連盟 HEnDA 東海ブロック</p>

### 解説

ブロック大会枠は、簡単には、いくつかの県をまたがり、広域的に開催された大会で優勝した学校への枠のことである。より頑張った学校を全国大会に選抜し、しかも生徒のディベート経験の可能性を県を越えて広げる、こうした大会開催の動きを少しでも後押しする狙いもあり、ブロック大会枠を設けている。

ただし事前に認定された大会といえども、ブロック大会条件に実際の結果が当てはまらない場合（学校数が少ない、特定の県のチームが多いなどの理由で）、その優勝校はブロック大会枠の選抜の対象とはならない。

ブロック大会枠は、県大会のない県の学校が全国大会に出場するための、例外的なルートともなる。準優勝までいった場合に限り、県大会のない学校を特別救済する制度を設ける。これにより特定の都道府県の参加がゼロになる事態をいくらか救済し、将来的な普及の足がかりとなることを狙う。

**ブロック大会の認定**：全国大会につながるブロック大会として認められるには、全国大会の論題・ルールに準じており、その大会の a) 参加校数が 10 校を越え、b) 特定の都道府県からの参加チーム数が参加総チーム数に占める割合が 4 割以下に抑えられている大会となっている。条件 a) では学校数、条件 b) ではチーム数となっていることに注意されたい。この条件 b) の実質的意味としては、特定の県のチーム数が多くないことが求められ、最低でも三つの県からの学校が参加していることである。

**ブロック大会の優勝校**：このブロック大会枠は、そうした大会での優勝校が出場を希望している限り、全国大会への出場資格を与える。あくまで応募した学校だけであり、自動的に与えられるわけではないことに注意が必要である。このブロック大会優勝校枠は、一切、他校に譲ることは出来ない。またブロック大会の優勝校が全国大会に応募しなかったとしても、その大会の 2 位以下の学校は、条件 E にあてはまる特例的な場合を除き、この枠を用いて応募することはできない。同じ学校が、複数のブロック大会に優勝した場合も、あくまでその優勝校だけがブロック枠を利用する権利を持つ（ブロック大会の 2 位以降の繰り上がり枠を認めることは、複数のブロック大会のうちどちらのブロック大会で繰り上げを行うかなど、公正性について甚大な問題を引き起こすので、一切認めない）。またブロック大会に既に優勝した学校を他のブロック大会から閉め出すような処置も、その学校の教育機会を奪うことになるので、するべきではない。

なお全国大会に出場をめざすならば、各ブロック大会の優勝校には、所属する県の県大会にも出場することが強く奨励される（これは同じ県に所属する学校の割り振りを増やすことに寄与する。出場学校数は、条件 B にも F にも影響するからである。総則 4 にもあるとおり、条件 D のブロック大会出場枠を確保した学校は、条件 D での出場を優先する。仮にその学校が、県大会で上位を取ったとしても、当該校を除いた上位が出場するので、ブロック大会での優勝は所属する県からの出場を増やす効果がある）。

#### ブロック大会枠での情報提供：

ブロック大会枠での出場応募にあたっては、通常の大会応募の他に次の情報の提供が必須となる（万が一、ブロック大会が認定基準に満たない場合にそなえ、県大会枠での出場も可能性がある場合、重複して応募することを奨励する）。

特に、その大会が、特定の都道府県だけにチームが偏っていないかを調べるため、自校だけでなく、全てのチームのリスト（校名・県名）を大会主催者にあらかじめもらっておく必要がある。必ず大会主催者に事前に情報を提供してもらうことが必要である。情報が足りない場合、このブロック大会枠では出場できない。

- ① 優勝したブロック大会名
- ② 大会開催期日・場所
- ③ 大会主催者・責任者氏名 連絡先 (email)
- ④ 大会の論題・試合形式 (HEnDA 準拠であることの確認)、大会出場制限 (例、東北 6 県の高校)
- ⑤ 予選試合数、本戦試合数
- ⑥ 参加チーム総数と、全ての出場チームの学校名と県名